

昭和40年10月25日

編集発行
南国市広報委員会

事務所
高知県南国市役所内
(電 2111)

印刷 川北印刷株式会社
(電 3151・有線155-11)

THE KŌHŌ NANKOKU



広報 南 国



自然の美

市の文化財

桑の川の

鳥居杉

むかしから世の中の

七不思議といわれてい
ます。

ここ桑の川地主神社
の老杉もさしずめその
七不思議の一つといえ
ます。

この杉を古くから里
人たちは鳥居杉とい

親んでいます、ただ残念なことは天然記念物の指定を受けていないことです。

しかし、日本にはこのように完全なものはなく、その資格は十分あるといわれています。いつの日か日の当たる場所に
出ることでしょう。

があるようだ。▽この後援会なる組織もおかしなもので、選挙とともに旗を上げ、選挙とともに壊滅する。これなども選挙自当の組織作りであることには間違いはない。しかしこうでもしなければならぬのがいまの世の中であるらしい。まして立候補を意図するものだけの力では到底当選は望み難いだろう。そのためこのような組織作りを力をもそぐことになるだろう。このような後援会を作らなくとも堂々と当選できる世の中にならないものだろうか。▽こんどは市長と市議補選のダブル選挙である。告示までにもますますはげしい戦いがくり広げられるだろう。候補者もそれを避ふ側も、金や、情実にもまじわされず、違反することもなく、正々堂々とあつてほしいものだ。



はやくも告示なき戦いがはげしいようだ。後免の町のあちこちに何某後援会事務所なるものが見られ、いろいろ人の出入り

10月の人口

＝ 9月の異動＝

出生	40	死亡	36
転入	445	転出	292
9月末の人口		42,302	
世帯数		9月末	
		11,322	

弾力のある市政

実行力のある首長

はやくも市内のあちこちで、次期市長の話が流れているようです。

池川現市長の退陣(?) 必至とみられる市長選は、十二月八日に予定されていますが、候補ともくされる人たちの事務所なるものもみかけられ、市長選への前しよう戦の幕は、静かに市民の目、耳、口に姿を現わしてきました。告示の日が近づくとしたがつて、その戦いもしゅん烈になることでしょう。

ところで、市民が期待する「市長像」「市政」と、その望むものについて話しあいをもってみました。これから立候補し、市長となる人の参考となれば幸とします。

▽ 新市長になにを望むか、まず道路網から。

▽ 黒龍から市役所までは、バスの利用で土佐山田町をうかいし二時間近くかかる。現在とりかかっている奈路―黒龍線の産業道路に山間の人たちは期待している。なお同線をバス路線とする道にするよう陳情してある。道路網の開発は辺地をなくす

▽ かつて知事と市長の対談の際にあった

海津線の整備拡充について、浦戸大橋への連絡道路として、十二分に意をくばってほしい。それと、ともに吾美郡南部への最短路線である、物部川下の橋の改修



馬橋における前浜―里改田―高知線の交通量は、四十分間に自乗車百八十台、モーター類が六十台、バス、トラック二十五台という数字が出た。簡易舗装されても、かしまかまほこ型の道面とあって、実効幅員はわずか二・五メートル、交通事故が起らないのが不思議である。事実、小さい事故はたびたび発生しており、かつ、交通事故ならぬ運転手同志の交通紛争があとをたない。

人	(公民館長)
居	(婦人代表)
竹	(青年代表)
田	(一般代表)
米	()
政	()
田	()
木	()
土	()
佐	()
浜	()
久	()
末	()
中	()
松	()

▽ 県道にしてもむかしそのままの姿が多く、現在の交通量からみても危険きわまるものだ。

▽ 県道にいてもむかしそのままの姿が多く、現在の交通量からみても危険きわまるものだ。

▽ 県道にいてもむかしそのままの姿が多く、現在の交通量からみても危険きわまるものだ。

庁舎よりもまず体育館

根の生えた産業指導を

市庁舎の建築についてはどのようになっているか。市庁舎の建築についてはどのようになっているか。市庁舎の建築についてはどのようになっているか。

市庁舎の建築についてはどのようになっているか。市庁舎の建築についてはどのようになっているか。市庁舎の建築についてはどのようになっているか。



この一票に明日の市政が

この一票に明日の市政が。この一票に明日の市政が。この一票に明日の市政が。

期待される

を道すのに何年もかかるというのが現状だ。こんなことも改善してほしい。

参加している4日クラブはその一端を担っているといえる。兼業農家と後継者作りの指導には市も本腰を入れてかかってほしいものだ。

どの機関も同じであるが、将来有望だということとそれ一つだけの指導をする嫌いがある。そして少し落ち目になると力を入れない。現在県ではかんきつに力を入れ過ぎている。広範開にわたって構想を立てて指導すべきだ。

市庁舎の建築についてはどのようになっているか。市庁舎の建築についてはどのようになっているか。市庁舎の建築についてはどのようになっているか。

主張

東王高で行われた三日間の農機具まつりは、天候に恵まれ、かなりの人出を呼んだようである。農家に必要な大工道具から家具一式、それに年々改良されてゆくばらしい農機具が数多く陳列された。

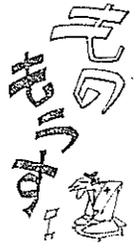
農機具まつりはこれでよいのか

そのご高知で二、三回農機具祭が行なわれ、またまた、試験場へもどり農機具が行なわれた。試験場の各種の試験結果の発表は農民にとって有益なものが数多くあった。一つ残念なことは試験場の種がなくなったり、また他の栽培されている植物がなくなったりす

アイデアのある市政を

財政的に窮乏している、そして仕事をやっつけ、市長であつてほしい。産業を興し、工場の誘致、観光コースなどを

公民館活動と切っても切れないのが、婦人と青年の活動である。しかし、その活動がまちまちで一本化されていない。婦人や青年の活動に理解をもち助力をしてほしい。



お茶の間

十月号のある農業雑誌は鹿兒島県大浦町にできた労働銀行の記事を載せている。

労働銀行誕生 農家の労働解消への 新しい試み

この町に労働銀行ができたのは昨年七月。ねらいはいまでもなく農家の労働不足の解消と、農業の質的向上にある。

いる時には、外部からの要請があれば出かけてゆく。銀行の力を借りたい人は仕事の内容と分量とを言って申し込むと、銀行の支配人

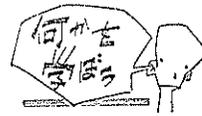
はメンバーの家を回って都合を聞き、あいている者はすぐこれに応じて仕組みになっている。

作業にでた時間数は加入者同志のばあいも、外へ出勤したばあいも、作業が一段落した時に清算する。よけい働いた人は賃金を受取り、よけい働いてもらった人は賃金を支払うわけだ。

以下すこし具体的な内容に触れてみると、銀行の仕事の主体は組合員相互の作業を共同で行なうことにあるが、しかしそれぞれに経費面は各自持ちで労働力を預け

っぱなしで引きださずすむ人もいれば、自分が預けた分を返かにかわ回る人もいるし、共同作業日に平日しかできない人もいると言

第二次大戦後日本もドイツも破壊され国力も大変弱くなった。日本は先づ住宅に娯楽に金をつぎ、ドイツは工場に金をつぎこんだ。ある学者がいった。西ドイツの労働者は戦いが終ると同時に、家は雨漏りがして

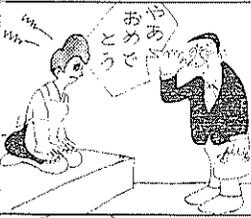


も工場 西ドイツ 発展の鍵 日の西ドイツである、優秀な製品が安くでさ、ドルが外貨が入ってきて困っている、日本は来ているとはいえドル不足の心配は常に行いなければならぬ。理くつだけではどうにもならぬ、働いて初めて繁栄がある。

の機械には思切つて金をつぎこんだ、そして偉いことは、国力が回復するまで貸上げはなるべくせずストライキはしないと資本家でなく労働者が申

つたぐあいなので、労働銀行で働くとばあいの賃金はすべて時間給にしている。一時間当り五十五円。それに五円の接待費がついて六十円。一日八時間働けば四百八十円の勘定。

一時間五円の接待費はいわばおやつ代。これさえだせばお昼のべんとうはもちろんな、三時のおやつをだす必要もなく、お茶さえ各自が魔法瓶に入れて持っていくと



毎月20日
無料人権相談所
中町公民館

この銀行の第一のねらいは不足の解消にあることはもちろんだが農協や役場ではこの銀行を中心に新しい農業経営の足固めを行なうことに努めているようである。すなわち、集団栽培によって省力技術を普及し、全体的に栽培技術の向上を計るための訓練の場を

銀行の組織に求めている。いま学力不足に悩んでいる農村の若者が、労働銀行の誕生は一歩前進した試みと言うべきであらう。そしてこの試みはみごとに成功しているようだ。

シールは
回収箱へ
少年補導センター

ことしを回顧する意味で、広く一般の市民から写真や、マンガを募集します。

写真、キヤビネ版、締め切りは十一月末日まで、題材は自由ですが、できればことし市内で行なわれた行事や、市が行なった事業を撮つたもの

を歓迎します。なお、市歌や、市の音頭も募集する予定でありますので、いまから想を練っておいて

ください。